

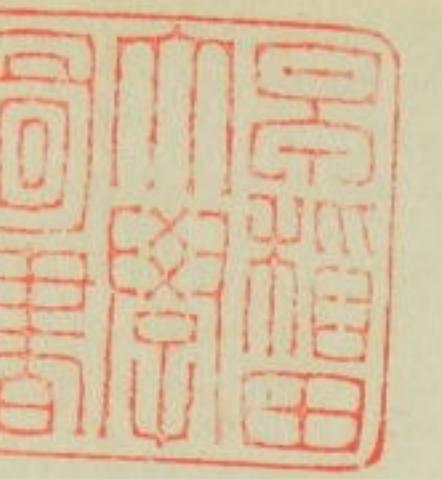
9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 6



燕石種十
吾妻光之記

四輯





燕石十種第四輯卷八

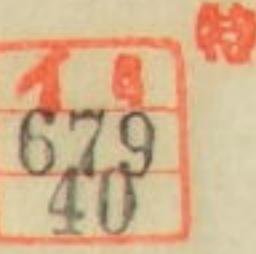
江戸書儈

活東子輯

わ川ま先くも

わざわちあらうあらうのうのかわざわいあらあく月日をちる
りのあり一がかるもぬとそひよそくらんと終はぢむたびの身をめ
ぬとさりてゆくことをゆのまへのそりびちーたをすきゆくをちる
をちるぬあきびゆつゆふづまのしげあをとあらざる身せゆく身
せらぬとのそらぬけをへなどりおとおをの／＼よおせやくも
なをもととふをもむーのゆきくとありてくらぬをたれとぞ
みもあるがよまくひきり風う／＼ゆけと二かねねこすゑを
こうぶそくむお／＼をゆびきやまことうか／＼一あゆむ
まくまかく

わざわちあらうあらうのうのかわざわいあらあく月日をちる
りのあり一がかるもぬとそひよそくらんと終はぢむたびの身をめ
ぬとさりてゆくことをゆのまへのそりびちーたをすきゆくをちる
をちるぬあきびゆつゆふづまのしげあをとあらざる身せゆく身
せらぬとのそらぬけをへなどりおとおをの／＼よおせやくも
なをもととふをもむーのゆきくとありてくらぬをたれとぞ
みもあるがよまくひきり風う／＼ゆけと二かねねこすゑを
こうぶそくむお／＼をゆびきやまことうか／＼一あゆむ
まくまかく



さうもゑいどね もうへを家とよけをあらへゆきとむわし
むのりとみきへかわどりりのやむりとなくねさとたな
うのひぐは見れまあるやすふありての井のあがよ
げとうとまきやつまもとまわがをさむへあ人のなるも
あさふじびへるおひの井とゑいたまひそめを
あひじぎをやまくとのまくらをあぐらんひまみ
とくとくをきゆけへらぬととせぬとくとくをくまを
きばものかくくもあひの面すけをあくとくうもとて
くゆるもがりはくとくぬひぐはくとくをあふきし田
せこりあきくらやくとく川のつまゐのやまくらせくま
ゆめのとよりくわがくまよおいかとく川のあまき
をきくあくからや二ちよのやまくまづきまくさまばうきせ
ゆくめをきくまくすのゆのさとへりとあるあらうのせきをえ

るうきばかりれせのむし秋ふくとひまへりく夜
またどもかるをなぐもひもなぐかりのとおもへたりす
あくとく川のせまなうくまきとめさせずみちあるかまをあ
くわくひま田のたまうものがりくらへくまはぢくねいどを
あくとくあらざまばじひあるがくばくとよりひとくらへく
きとくまくとくらへくあるひととくわくわくとたまく
くねいどりくまくとくらへくまはくまはくまはく
などなくいきくらへく川なぐれくまくまくまくまく
をくくとくはいまくとくのまくまくまくまくまく
すきねくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
めのまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
日光のをりとふとてのうきたむを下野のむろのやまふた
さくらなるあひなまきひくとくぬをほくとくぬの處

よりおつみの内おもてのうちわりをひきおひえ
をひまゆをととくにかかまひがくまのまきまきりの
まきをとくにかかまひがくまのまきまきりの
なぐすもといまきをさあぐふかまみうらゆもなぐす
とうきせあまばうせかわくいのしきやか
うたうひごとまきとあはをなぐさりをとめのまき
すきゆけをなぐふもくちよかあらんまうだのまく
とこいなきごくもせうもしとあまのうきのこもすまの
木加里路
けのうと行よこうをみてあまくわくうをく
うきごくみのうきをいのうくわくうをく
せまゆをすくうの里とくうかくうたもよるうげのあくゆ
まくまくよがおよやかくすくうをかとうよもやく
ぐよさとたまくよくちもくよもくよもくよもく

笑のあせてもやうよたもりくへとまのきとまよあく
みちをかむげじゆもさきみいとみをわく
てかどり
あひをふあききめわはしき
なまくはけきもさのゑ
せうゑいじもれいせうちやうのとねもわたりをあき
ちがちよてきよ

そのとおりだ

うそひうのからくわむ

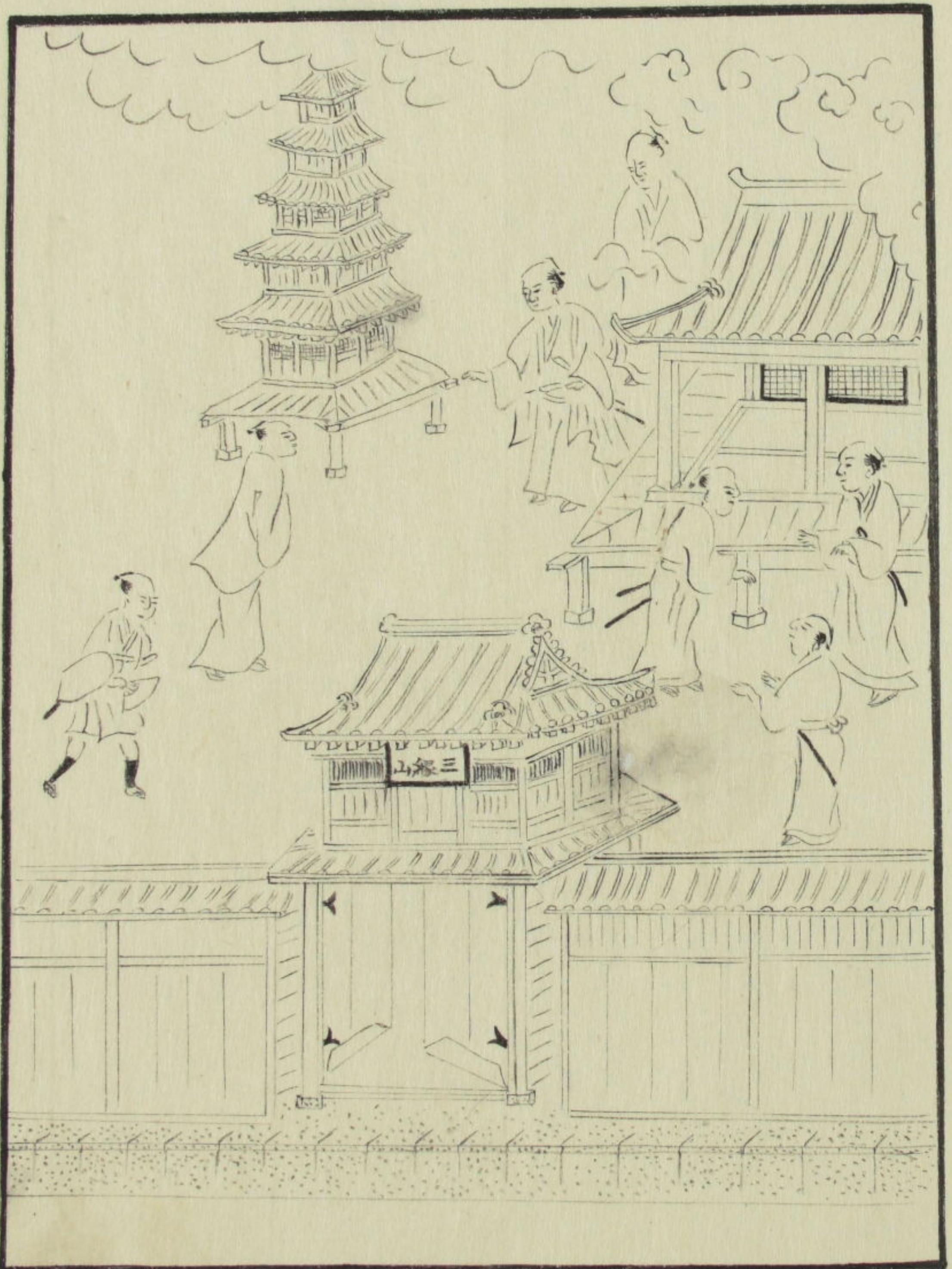
とたくねおりひをあらがうかへせんぢゆのとみゆ
きくもあみあぐりもまくはぬ田の面ようへそへりうのまよくうど
なきてしゆくちやもゆくのか。ひのすゑすゑすゑすゑ
あきりなきのたねをまくやんのうきくちもおほそそりをゆく

いまとあらつものもすよむち、あきをもとせばわとも
をくむのゆよつまよろりあそぶ川のさしをれをよ
そそて大がとけちやゑのわづりよやさをかく月日をわく
しがそそりのうきたびのせじゆのむなよりとゆふどくあけれ
あがくひとくくわがまくさくまのいとまくもまくまくを
いづる月日をくわむとどからむむ／＼あざらぬむすみを
ばち／＼あ／＼おをくもくもく

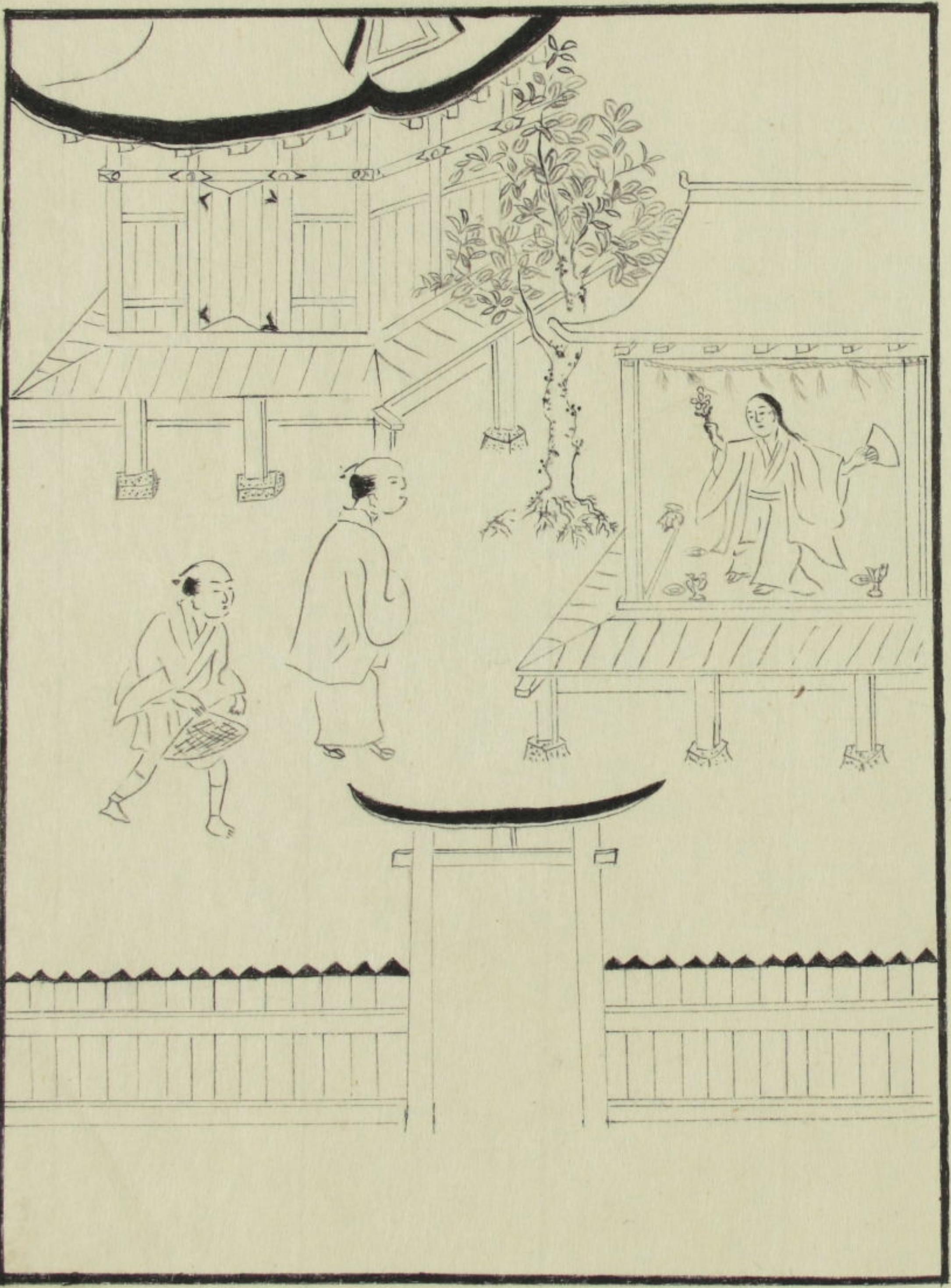
ゆきをけぬるはつうとひぐる

まことにいひもとひる
あむく人ひあへわまうさび
かくわよやどをともひでときり町うすすきもとをうち
そりゆんじとひをこむか増よまざのおりとたゞむきば三さんじと
うれうれさてや堂ひえうけまんのかみうりあへたま

かちうひいはちのふざき不ぞけとくむよすうじの佛と名せらる

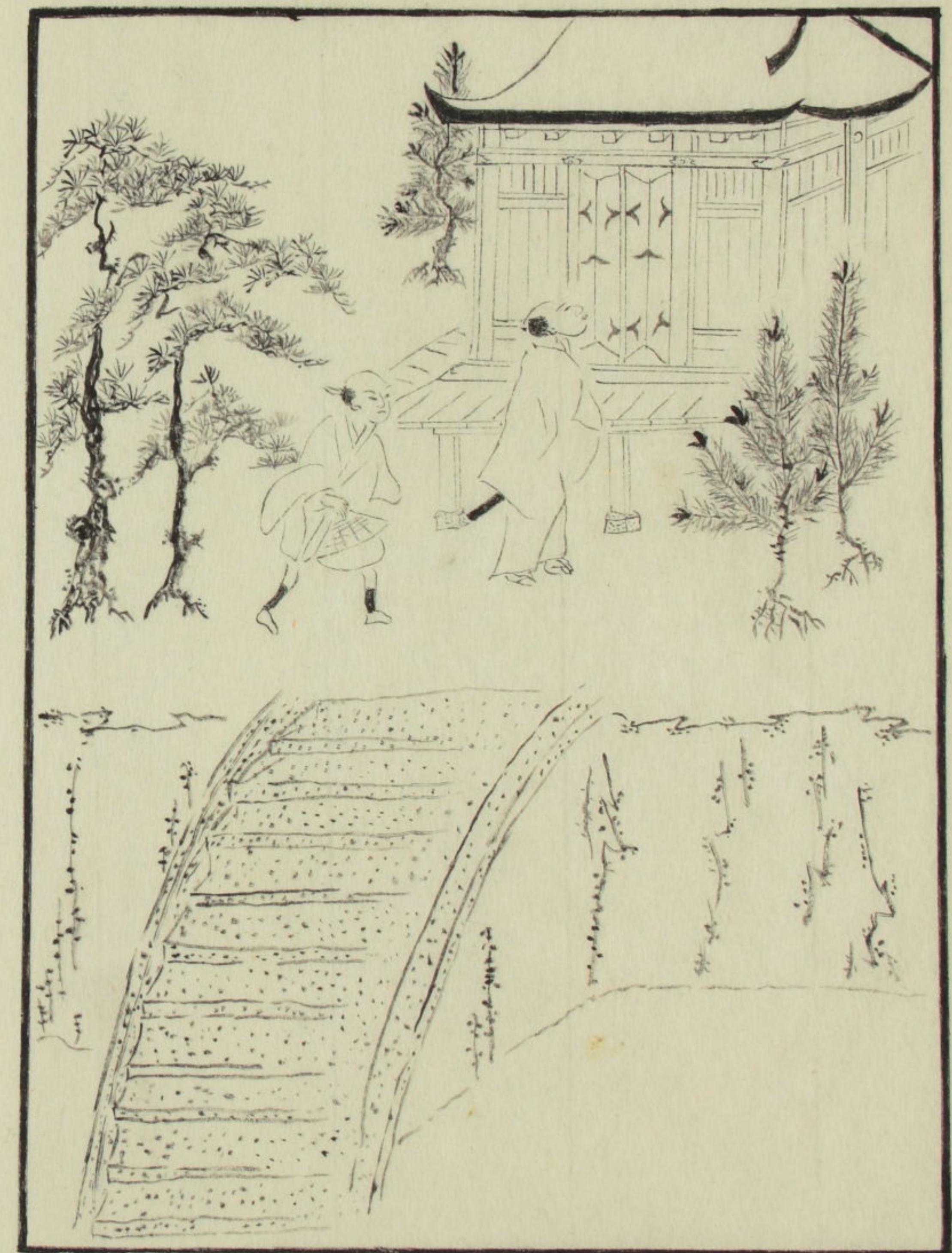


やぢニチハ
一
か



さきがからむ。まづ地常夜五代のこととよ天照大神
月をうもひすひく。いふせんあまのしも戸はひきこりことど
あゆみの處常夜とある。ありきりわざ。のえをまつ
とひく。へりぐるをたゞまづや。神ものまつ
いたとひく。とまづ大きめ。日月もとい
ごとくとくことくわがりましを。さんかくあんと
そきをひきみて。なんの風ふ東よいもひくとまづ
さんさんのもくとまづ。まつともももくのねがりをまづ
もありえのかぐ。おのことをべみち。みよらひをまづ
父のやをめぐ。父のとくをかくどもとじや。さも
のとくひさんちをわざ。お詫をざやう。あるとくがい
りのえのよひく。もあく。ろくよとくとくのとく
も。まきくわざをまづ。とくとくのよひくをひく

たまよとみ人のあらと見ると、此のまことにあり
そよともつて、さりからぬもすきをあんめいよふくさやのを
けまもく、川むすび、さりゆんでをえきばりごと
たうけをばらひ、さりゆうて、なんのまよあひある、あまな
きよひまをあくと、あるもまよ、さうもすくもひだ
をあらもまばさん、海
上、
まよこうひゆるのかぎりあくさまをひてよろをちげとのが
りくまやうめおもあままで、うみよのこゑをす
やわらかん、桑とまつよあらもせばふそくとて、うをすら



端
ひもふうりゆまをびきよひへ相のとがるうをま
はつとも月のしまあくさーいじこもひをちこわうせのそび
をきのをたひゆふゆぎのまきすりおうそりしゆふ
あみふうのうがくやあどもらんきばせんなどりもあく
がくよきをよきるといふあきらをあふとくとこきはいき
くうねもまよくもなきめぐらのふがくもくもひ
あねやむらさんきうざくらけりとくいぬくもびの
もくもあくらくもくのかすみのせむとくくふくうをと
てあくもきばくくにゆやひのゆよ出入りんたむけきばかもくみ
りんとあだけたりうれむくわくとくをあくびくたむく
てものまんうをよきそくきよまくとくりがくすきを
まくまんうのまくううれんをだくとくもくを

あすをもむあむをだまむるおどきに處ちりもひ
まのゆゑとかくとあひてはなりひげをもんが
町ひまあるひまやうあるときばひきなびものる
ゆうきひきつる室をあびてなしありかゆのうよ
ひあはまきらめきあびるや刀わくまよを船を
ぎよみうげひきときよるあびけるあひたりふのふをき
風ひけが小舟よたまるとひたすりせざふをひけがうが
まびそをるかよをう小まゆいうふ

えあわのうちうたうとあうじあひと
まをあひてりもれあくわじまゆめをひがなび
ぬくもあうきときばもびけらあがふうもしれをみる
うくねおひのうとそとひもあびともううりうを
見のうともとまのういえことくとくとく

あひ物

まもあさびふあびくともありかくやそとせんげいもくの
おぐよのをひせばなんのゆゑとなびくすまあひゆはひをかくま
しとわくひくまのとのおぐもあくわくまくわく
もあくのこしゆるうぐまきへあくあくわくもあく
をくわくひくわくくまくのくもでくまのをくくひくまく
くまもがくまもがくまもがくまもがくまもがく
ゆきとくまくまもなまくゆくゆくゆくゆくゆく
きりかとかきとくとくとくとくとくとくとくとく
のがきぐくもいがくもいがくもいがくもいがく
きもゆきよくわくをほくならむわくゆくゆくゆく
まわくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まわくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まわくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

うのうみてかへりて二わりとたがひよしをもすひよくもんま
かへひをいはきもあわすあひありさくばせうかもいうちやとつ
ちやうちの袖をあきらめうかうかうへいふのすのよわうきま
ひんづるのとよもすれあひとをひをもひてゆくさうひをあぐともす
とくようかのかりとつひもそきりしゆのまやあひのかり代
わゆきるまひをうといのあきくらりりやもくをくす
ももすくらああもさざやつまねびあちゆのかりとなふあるをき
あひゆといさきよくちやうんニツよそいへをえりとこくくかくち
ゆくらのうりて二ふくまでいほきとひうざふくまへせうまとひ
けきべていげのうてうびんおさんじゆうひようまをあひうきのびを
くす二ふくまひとひもひくらよますとてに二ふ
よしおりせき天ぢくのとうきよを大臣とし人へまにす
くまうをぐのとくとおがくちんがくまでりんのとくとおまん

こゝへ二まん二すをゆるまくとあてせのうちのくを二まん二す
福んまきのくだがだびあよみそはりかんねつ二りのとみまうあす
をこへりぬやまひかくちちゑまくとあまきしらむるのと
ぐまでへをぐるあくまくとくへふくと二まん二すをぐらう
りぬのせまどもつまくとこりくとくとちゆとあづけくわきばちゆと
もむりくとことだびのたれとくとくとくとくとくとくとくとくと
まわらにあくもあくちゆのゆのざくと十二りとくとくとくとくとくと
くねいきのりのあいしばらうあくま



やもくを二のあちをきりをひのつをもやまんと
なぐらみをもくらすやまととてわくゆきをばせし
きもけられたまことあむひよをあざりおさかさう
きもそびへりやくさぬまぬのかきのきもよう
かきてわざりかのまが下町をなまもきがすのえづけの内
りんよりいと入るのとくよひがくよくある町よつとく
りよひくうきをこぎをもひうきよまりりそゆけ
ちよせき了経たもとすさやぢたもあへゆけどもさ
ひこうもらんや町からもぢきてゆもわくもあみよあ
か町のさうひをもくるあくやたけ山町とくふくふく
くもゆよさんまう町よねそうりくわ町さうてゆも
ありまをなまのひを屋てくをひくゆくゆく町といまそ
あがひあ良まゆもゆとあげどくよいとつまをそゆりごめの

日影西

卷之四

を興るからとひきとりてゆゑのむすをうるみすれ天
ぢくせとうとよとのまんまくのゆききにさくまんをとやつて
のあんかゆりをもと太あく人とさくとさくとさくとさくとさくと
さくといぢゆりんとせんざあらありゆうまの庵あゆゆ
はうそゆくゆ川もとをへせあくふすりえどもあけをがまも
えくどもとゑいらんますてかのよせりとよたもちよりてゆゑを
かげきときのよみがよぬけいぐわとさきゆきがま庵あゆ
よとたりてせつねくよをりきもたりくゆれやまもと
一羽まひさがりとつづのあくとくとくとくとくとくと
をかずらや一ゑあまくとくとくとくとくとくとくとくと
りもとくや又あんたんへくわうてよゆ代よもじまくとくとくと
國うおがれぬとくふあんぐくうくうくうくうくうくうく
せあふをとく天かく地ひくあめつもくとくとくとくとく

國をざやつみありなきばらぬとまももだまりてこゝろのすよ
せをもる京ぞりゆけば君が代ハあがさき町とまくかふ人を
あらぬあいだがたとひづくふあけ町のあんどのすまゐあらぬ
といまうてつるやじ井町ももと小きくたまくまくの元
おどりあきらきばあくのことをもりづきとむまくひおど
しのうがくもみまぐの本うりすまく行ひまくくそりと
おどりすぢかとまらじやうある月わのとまくのゑうり
おのすきふかく見てまがハ町がくのゆくをもひきいんと肉と
まくらりやうりけばせぢよ先ひりでくきりとまゆのゆくを
ひうち町がくまくりからぬかくもやをとまく見えばあはま
ううひやまきをのりのやういのまとうをいふふとまくとま
あひくとまくあまくとまくかをかくしうじをばもくさきと
入かくひふくとまくかくやのとまくまくのすまくまくをばく

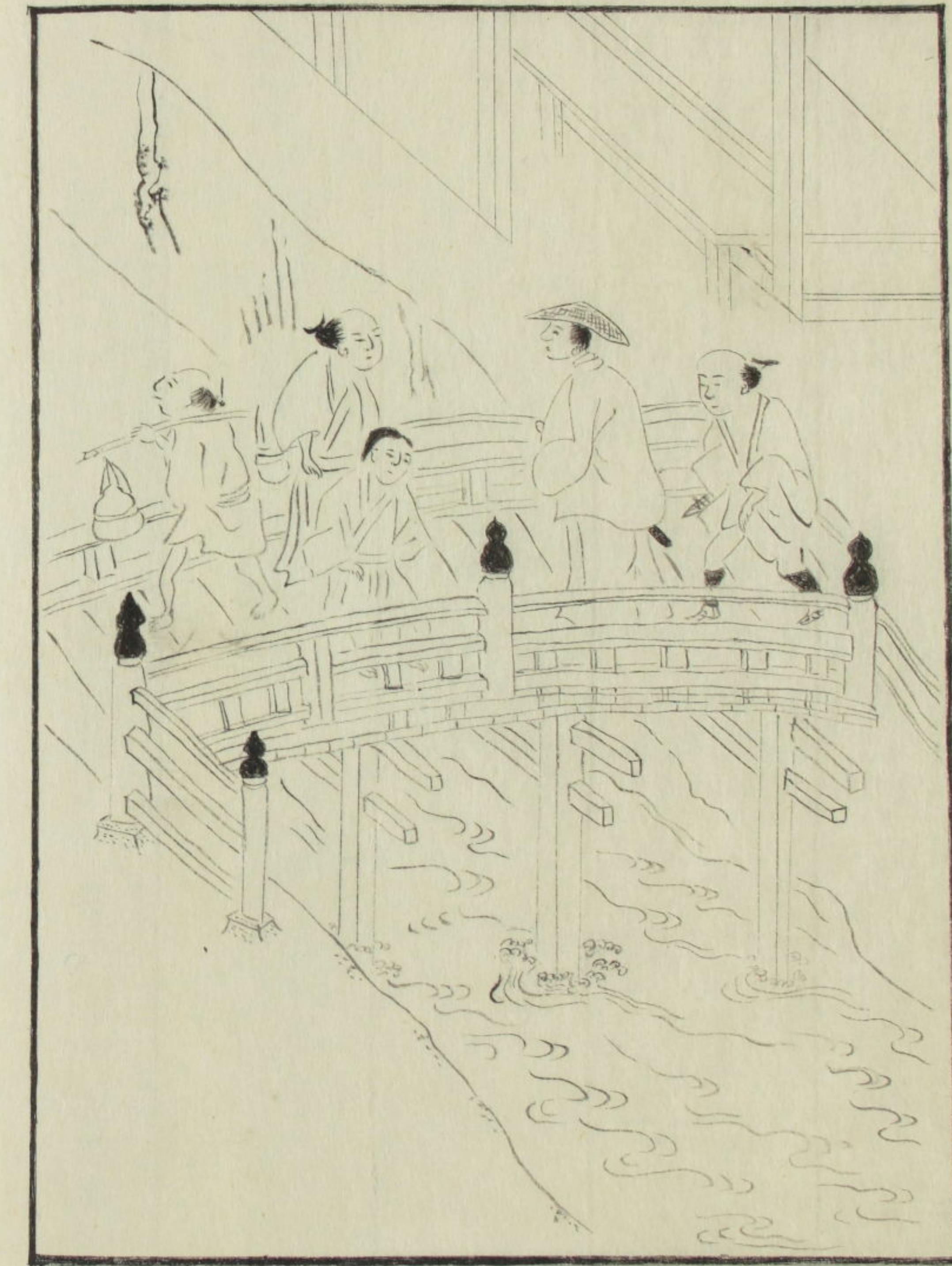
ちもとまくハぬ ざふとびじもともとくのひ戻りまくいとくかま
なくとまくわざむくをかくしつけたり
からひとまくわくとまくばとめり

人のなまくけハまくよとせわん

かくのとまくとまくわきりとまくべくもまくもまくわらんと
あらうれのまくのトヨとまくばか道か科田のまくあんま
がくくら一ねむきの押用すとまく天下一ととかくよまかえ
らまくわくまくかくりのひすくじよ新葉を巣うけあく
巣うとまくとまくわくまくよとまくかくまくとまく
よあまくとまくわくまくよとまくかくいぐをさんきばくわく
すゑくまくの町とまくわくわくのとまくふかくのいぐ
久方のまくまくかくじなぐきせみあくとまくわくことまく
けまくとまくたまくごのまくのまくとまくわくまくかくじ

まことに、おまえの心をさう

まわづりとることよりの縁をきく
うりかへりのへさうがあそび
とかへりよゑいとゆり町とのちやをなうもきばもてんかさん
和すのまかどといもんわうぐわるいよくちよことよまこと異あ
ひとひしきをとふぞみやうせそつゆをきりわそそつゆのちもむ
まへとどもまゐのかもれしをいはくもくとひのたまもくと
とりもいとかくらむくわくりてこをさんとよもぐくやくく
ごのまをくらふらす天せ矢をとせはよ船矢とくくかく
矢かどよおこらぬももびももやふくわくかくまくまくまく
やあくそくひよやひよやひよやひよやひよやひよやひよ
まくの町を越すもりてまちのくせまとまでかくもあくらきばん國と天ぢくのき
もつまくらうちのむくをくらひきばんがん國と天ぢくのき
くらひきばん國と天ぢくのき



りあるまゝをひやむほはるあゆのりのぐれのくわすき
りの筆がくもむちのじまもとづくとをまかへどざ
うきくまきにあらかみをうやまといきありとまゆ
をひゆくりてくわくせのすやさんばくくまぐのす
あがくわくとそいゑよかきりきりとくぞの家
しひとゆと馬まくひきかくこくよけのすまのび
くわくつをうぬんとおうりさんとそのやうのとく
ももせんきくおがくわくとをかくとめくとくだ
うぐよすくわくさん等_勘くわくとまくとくとをく銀多もも
すくもくらのりのきもくらのりをすくもくらも
ももをもくらうくらうくらのりをすくもくらも
のりのをばくらうくらうくらのりをすくもくら
くもくらうくらうくらのりをすくもくらも

けもやうのりのをかへつこゑをせんよつせりんをま
まともむわうくんのあぐまつてらそもあんざんまきばあく
まよこさんのはりのをほひとしもをすますまもあく
まきはるすあきどもみゆのまきをばく姓
けのつとまきといま花まかまくわうりのすあき
まもものかわくさみうがわくまもひをたのめやありおう茶
のあらむと大あくすのむすもありぢんごをうじらむをひき
まくわくわくとをたとせんをかゆすもわくちのゆゑ湯
わくよかをやつづくましづきをすまわりうひづくよまた
いこのくわくをすまわくとをすまわくすきのもぢろ
あくをんあくとくめく

上
經

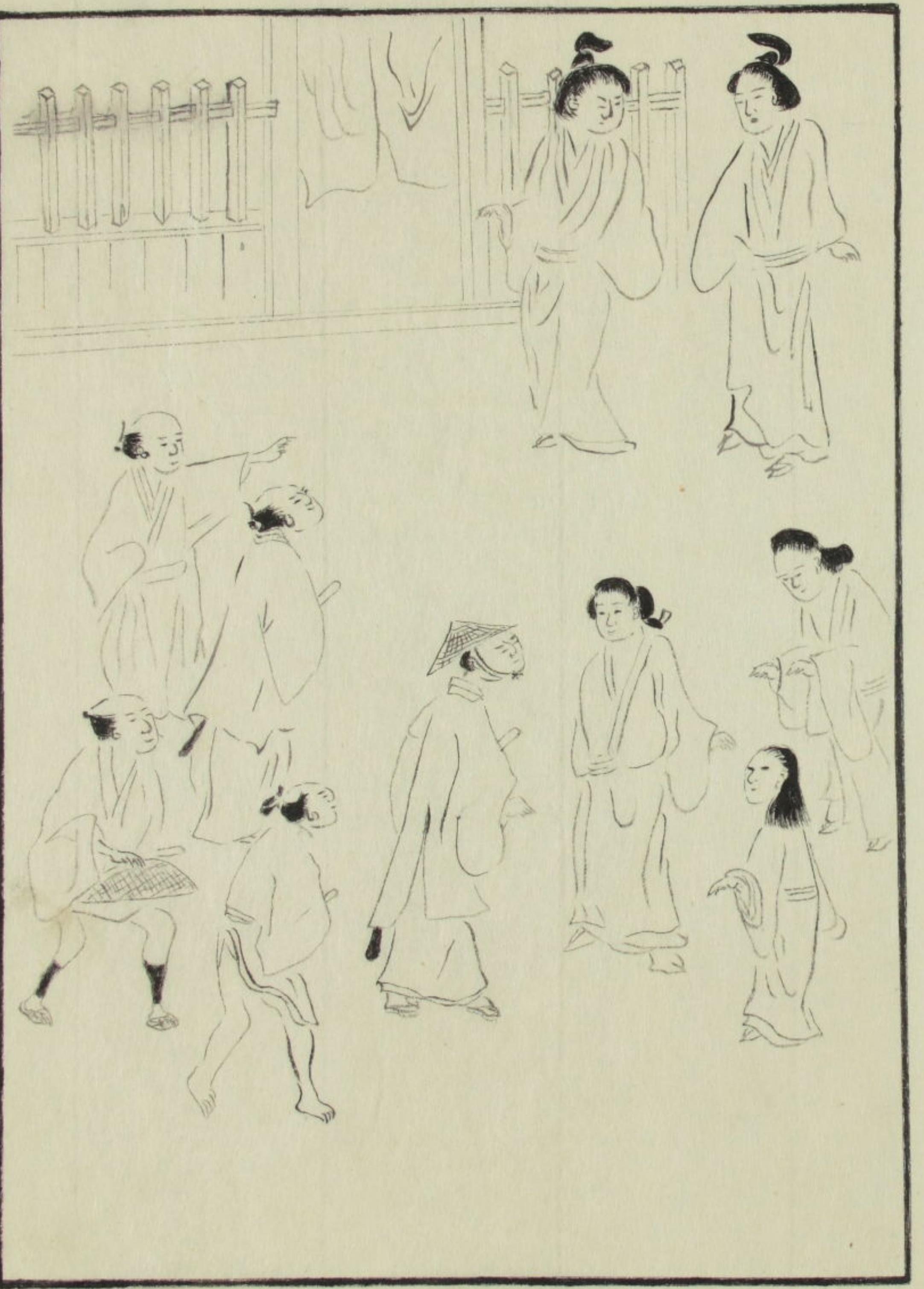
あつま先うり

称宣町

須遠長者

ちの川ちかうじやがてこつまをいきてやるするまば
あひはくよりもみと下ん石くりん内らうよくあんま
そくそざんせぬあくらうきは、往きりこきひ又たりま
をりひくまうびうもそくさうこの三井びゆがあつ
い角のせまでもつゝまくさんべよ後ご後あんこうとぞ入らる
るの福よ福くらのほのまくらりのをとづくをうく財ひがひ
のまわるのゑ月もうどひがんちの福よ福を福を福勝
やまくすをもさく月きぎゆうざくをもくつむく
むりよかきうづきえ日もちせ本番ぐみせんちのあげひく參そ
もじじう百さんふうくとくぐくするへどもあくドかををいえ
ひあくまよのうめうもうもとーのうきまー日もかどる
事のあくらへりきるくちとゆのとよのうけゆかたちいき
をとまちやまくとくとくとくのあづくらもよくまくまくの

よろくのまくとくあくさうす小そでうへる、わざきのいろはも
ふみひもおびやぢりげやせはあひをめぐりてせがくふひす
じあそんとおさまへかくらすりゆきまもまくと
らばらうかれおまゆとくのくわせにまのまくひのあきよ
せもとまくまくまくまくおもとあくらのありんげくほくら
てあくやまくとくふよんつぞくしてまくとあ地まきよ
りんくよひくさきいとみのうらうもとたまくまくねんごくの
きをわくとくひくとくのとくまくのとくまくのとくまくの
福くのあくとよあくとともじとめあくまくゆくがくもくと
そくとあくといふとたづねまくあくとまくとくまくと
くのくらうのあくとまくとくとくまくのとくまくのとくまくの
づもゆきよとくまくとくまくとくとくまくとくとく

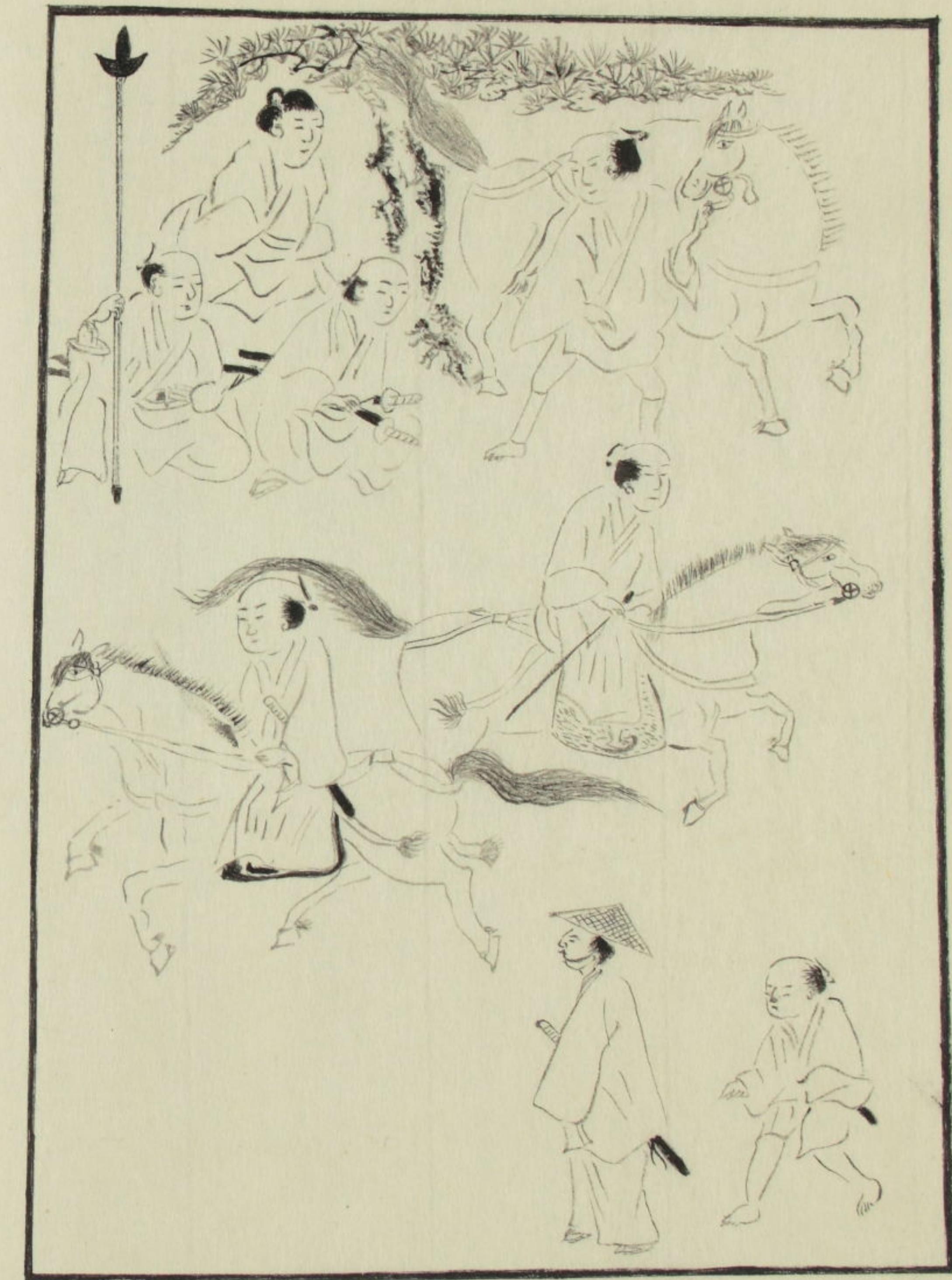


うんがんよいをはかりわとふえのさうひのいもをひど
うんがんよくとらうわなうとやうりこをば

そのくらへとばかりきりされをゆくもいふへどもおなじ
ゆとりかたすのせんざいのましむかくテ人ヒトがもひるべしめ
をいんとてあがへあらざるまきをさいとばおどときとくとく
きるやどりあわをくもいんをかりすむひらあくしすし
とも名づけとておのちをりや人のこころもうまきのゆ
ゆらんとしまさいあらかがくしてのこころをかぶらむとて
まきとがくとがくとがくとがくとがくとがくとがくとがく
さればやみのむづくやまきハゆんぐくをぬきひるをあめり
あきと月のさうひまつりみぢみづけのみもあくねきのたもと
らもとととととととととととととととととととととと
ゆげをとととととととととととととととととととととと
あんちゆやまくはゆまきまちあきわきよとてるびくや
とととととととととととととととととととととととと

すと志川見ミキがくらむゆきよき世ゑすとととととととととととと
とも一高タカんをせとぬ町とみあるある小田コダもくちゆをしげのまわ
とよ志川タカらうこうとあらゆアラユあく町のすゑもくらう町
もくらうくひゆきくちつまくくふくらばの馬ウマりうあくひ
つうげうげうきをかみ耶エの馬ウマとうちえで行ハシあうごまゐいも
まきのうがくらむのいのくのきんをきくむくいあきり
つれと船人ボウジンりうちひきいいまくまたもくうをつげふあんぢの
づぶくらうちんチンぐくのひののまくらゆかづきありがいをすがふ
づぶくらうむくさきよむくらゆかづきありがいをすがふ
いふくらうむくさきよむくらゆかづきありがいをすがふ
のまくらゆかづきありがいをすがふ

まちのりとをう町あそびすりいぢくのいじきをさよ
をう町のあいあがき行りさん、さうもゆんゆ代はあいあす
まものあらしきたづねをば八石八町ふりうるやかきをいぢんひうき
ひうき まわやういやべゆもごの日をひくを見かよひく
くまのをだうゆきを春花ひく夏いまくわきをわくわき
くまば行くしふくもくちりをいとくんたあくうわきをわくわき
とくまわるあくうだてのくまと風もくふももをひらひてこゑし
きりまくともよこむへきよびやすぶをわくわきしきまくともま
まあるくわくひくまうづきいはあく角くう角くまよひひら
くまくぐりんどうはくもちなる駕んをかあくを沢のどぶをば
くまづくへ时おいをひくひくそちよりんちんちゆうをわく
つとみをうきどくわくひのまゆをわくそうまくけきうき
くひくもあくわくひくひく



ももとこゝまよたきば又いとかきくちあがたまびきを
ひくとくうもんをやつてもまのくわむをさきたうを
ほりあうりものくわびひもくもくやああがが因ひ
きゆのむきぬるのうんづるひき因を見ひじてを
くらんひくもくもくへひむきのひすみくらんを
三十とねんすきてのもちか戸をひくをぬひくわ
事あづちあきをん音論ねんのまんきをばにてくわ。味等
のよもゆくをいづをぬりのくりまあるまんや清玄歌と
きをひくひてせよりども志向がくくらんあくかきぢう
りよもとくらんのかよもくびくやかくわくしある
しやくよあとまをうかくとわかくもくとすむくふは
をうくとくらんのかよもくびくやかくわくしある
すゑゆまくやあもひくとも天津のとく井をもぐもぐ

るのとて急に皆あたりきりがまのまへあるをきくといふる。いはま
とくとくあんがちこくもあくとそきくぶたのぶんあんのびづのま
すぐぢきよひをくもまかびとくがわくらくかくすとし
てよりしとくわざとあんがちよ一職ちくとくらうまきかくとこを
をうけもしりいよあんがちもまくとがきとくせんとく事いはま
とくひけをだかんきはなえ代をばしゆも天道の福んぐくせうきを
てねんきくさのむくつての事うよ田村の山内かきあげとやく
なありきさがふべにあくとからとあゆけふあくせうるいとがもの
りうげをあらわせかきをたくそりとをうくふくよりしきあんべ
とじんとくをかくへとりまかきをねぐらく見ぬ人あくふうりう
ききび見るかくはうきよ一職せんとくまくとくつとぞうせんとくもな
かくもむうをほく時へあゆけのかくふねあくとふんわくらう
つもあくとくもあらわの事あくとハセキとくいはまくハセキ

あれどももぐりやくりんぐわんのすめとせあくねをうけがま
さくのちくやのうくのわくんとあくわくきくとくもあらまいと
とせきひきくとくわくのむきを入を社ふまく

をりもをふかくをひきあらうとえざんよこゑがをまゐ
こきよせゆきのさりんをすりませゆけのりまをもひき
げふありがてや君が代のえつゝまきたりをすりふをもかふす
むをじゆまきをばたきもあまとゆのあも池をせかのやまゆ
もきまふやまくとくせんくわうじゆよちうさやるもが
まうもんせよのをいちまことりもとくせんのくせこゑひづふくゆつ
くみふくりんぜきもましらんとくじくとくくまくさくめぐりめぐらむ
すくつゝくわのをあんずまきりもむりめぐりすくびとわきがくき
せのえぐりやうさくもせりひまむるもまかめぐらむくふを
すくめぐらむくのいとみあまきくふくまくびとくえくももぐく
やくをめぐりとせんねじくふくまくとくくわくとく
もくのくわくめぐりとくくがふのぐんあめぐくふくまくわくとく
もくのくわくめぐりとくくがふのぐんあめぐくふくまくわくとく



並本の元

もやつさふきりなまみの元ハカミサシヒキをもふかくう
まがるをかげのらひもとまんもみそぞうりいわひのねとん
きくがもんよのもののもとこもくいじぞきくらんと
ゆべどあくみあくみあくみあくみあくみあくみあく
まんざ



うるふとせうざんさんみんの志川^ヒ_宝あらわをちりぢりひだ
塔^{タツ}ふたうとくもひげても井をさるむをびぐ。二世のさみんをもまんう
のハ九石んのドアとどかとうきよのつみをとぐらんたまひうそを
くしきれどもあらへばとくだまちからあるがぬ太石をさきのかま
ふづりあらとみぐはと井のひづみをあらすじへりれにを云
せたまもこゑあらぬこゑきくもくろをさりまぶらあらへるを
りりせきらうひうひくわんせき二世けんらくときせいへろちの
つけをあらもまだちふがんはせふとくらうふるんうらうもぐよさい
あふきみだとまひづる二世の君のまわひをちとせまど水^ス犀^スい
けとくありがくきのりは場ためぐりて元へなるゆきを望
たちより川のあがきをあがひふおりぬくすれこぞのありびん
うくこがきゆくをまみことと行うとまがくとくまます
ど川



もめこゝれのもとをさへ
やあさくさくをこなすまでいりゆたせぬ
ほんゆのまふまじて行なはよあらあけまへむめこゝれのあと
まくらもあまへとあらをまくらをまくら

な
む
り
ん

た
ち
て

三
三月二日

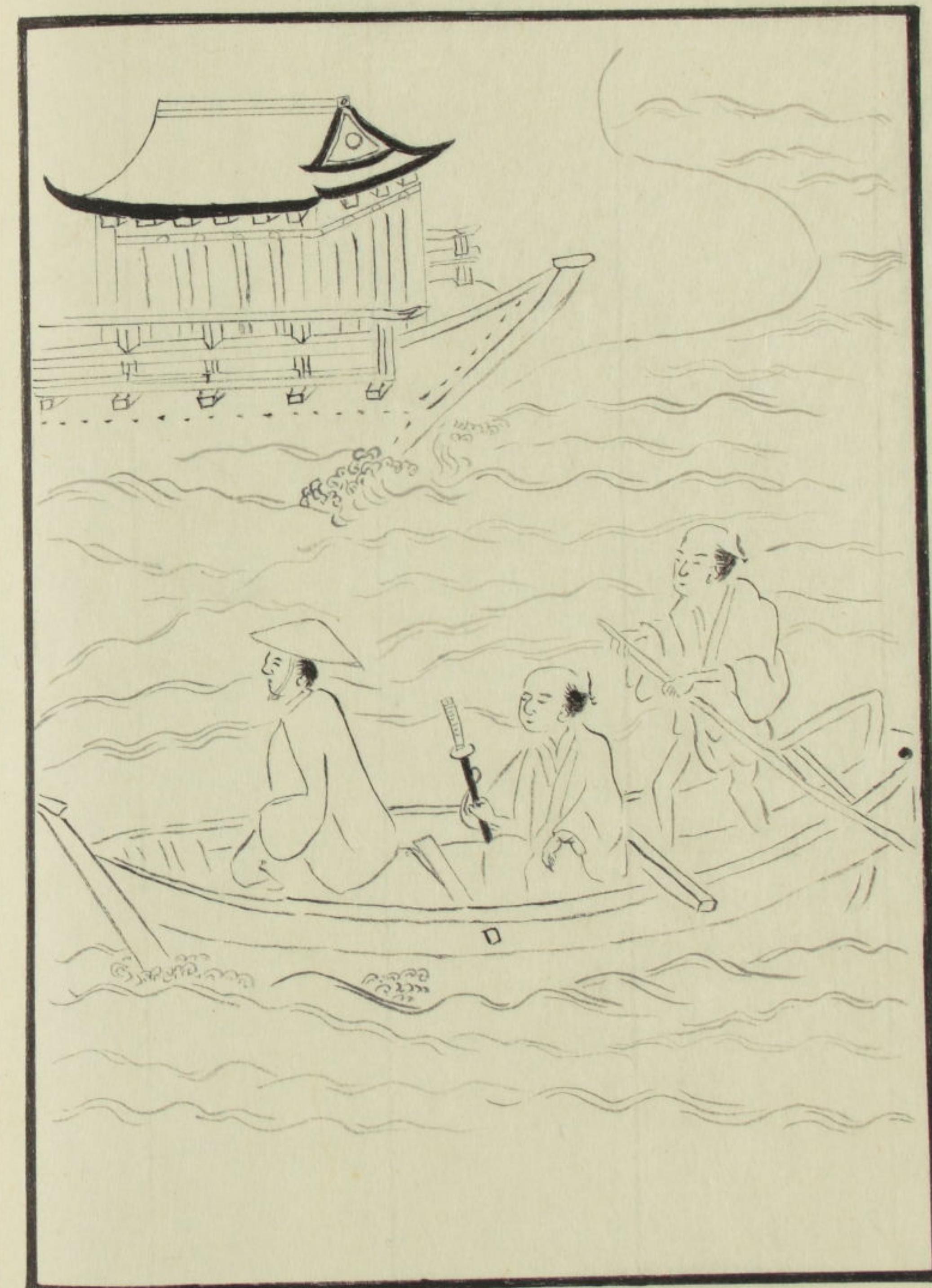
とかくよまい。さうをあくやとよもがしもせさんふ
かくよきぬりのすみよかくらんとくもこきわど
かりをしづめりゆよひがみんゆへみのまん
はく力もくすまうのうだんうもくのむとくうがくと大船うび
えくよきりあきかいととひけきばせん
名かくもむ行うだんばくとくじぶねなう
きくがくよのむうをたづねきばんぐくのくつうてくよくう
てきとそくは下あまとくわてきとくよくよのいはおりとをあうむ

きばかりのゆゑのすまつてかうすゆゑよとせんてやあぎ
のまみづくくもとくとりもめりづくともなくあち
きみが一まゆるよやどりつてまきら風よ身をまくせまきづまのり
ありぬをげてもむぢしきりよくまつていふをたくま
たくらぬをまぶくらといれともやきり又くらうといへま
とまふたくらうゆめきれつたたうをあひぎまくみち
をやまくたいりげてゆばふおきままで日ハ一まんへせんさいとうやか
くもめでたきらうといゆゆまゆるはざまゆのいくちようけで
きみがゆのえくつかくきたりあり又うぶてまゆあびまき
ひとひのゆゑありけきぶわんまゆもあほけくわゆのりくら
まゆびりてさかすくるもあけどもしりきとかくよどいまば
ゆけ丸ともやく

九十九

久
元
と
も
や
う

すきばかりとみよとかまくふすもとくもるきばくのめどみを
おりぐれとまきとすむの處うかぐりゆせんざのこゑ
わどゆうしよわきりがみのあまがね一まんのびりう
さきをうねじくせさんみいあらじやまくらんがりきとひ
けきばらきのきくまやんどくの内事とくわくわくそひ
みくらんぢといまくのきくまやんどくの内事とくわくわくそひ
せまんのやまくさがふりきあくもみよたよとほりをね
とのあきばうきせよもくのまもあにうこくすアされ
ども天やあんぢんよもくのゆうたこくりでたきや代のな
しまおはだやまく川よいくまやく花を風にうきんがりひ
ひあくわんげんじくうをかけぬ人もかくうけてもくわくま
あきへあをねてくまくわくわくとありをうくまく大をくま
今をあくうりなまくまのいくまもんかくまくま



かげてもまくらのやうのかいひやまけをばまうるの
まんかもすりあらうるゑいとれをは書せ書みゆくあんどを
てあらうるをのきへおもつゆわども身のあこもひがあがく
いづくのこゑのまうかくありとちもりをまうのこゑをす
をまのぐともあらうるとまうとありあがくまうを
あらぎんとかうじをまうがけまうとあもせりてみもとまうを
ともぢんぎれいちをまうとまととわりきのもあうぶ
ほがまうまうかくびとだいりく宿んあらすまうを
あどこと人もありまうとまうもわねまうとあうまうお
まうどりんせきトまうのくもりわもとたんをたと
かもごきせんくいんせきまうがまうひがいぬのまうり
おさんばうくまうがまうとまうをまうせんどうくあまう
まうまうまうのくもあまうがまうをまうまうをまう

まうまうまうがまうとのねまうかいまよおとづまうめいた
きみ代の行うまうをたまうまうまうあまかまうとさんとめまう
のもまうまうをあらうるうめうまうまうまうのま
ふたうる代のすまうハラゲをだらうけあくづを
きをあまうるあくづとくのあくづまうまうのいくとくと
ろくまうまうまうまうをまうめぬるあくづまうあくづと
りくづまうまうおとあくづとくちりんのむかまうまう
をまうもあくづとくじあまうとあくづんきまうをかひて
たまうを

このまうのまうのあくづとく
つまうをつまうとく
おまうかまうとく
このまうのまうのまうのまうのまう

ミシシッカアモロ

貴殿恩

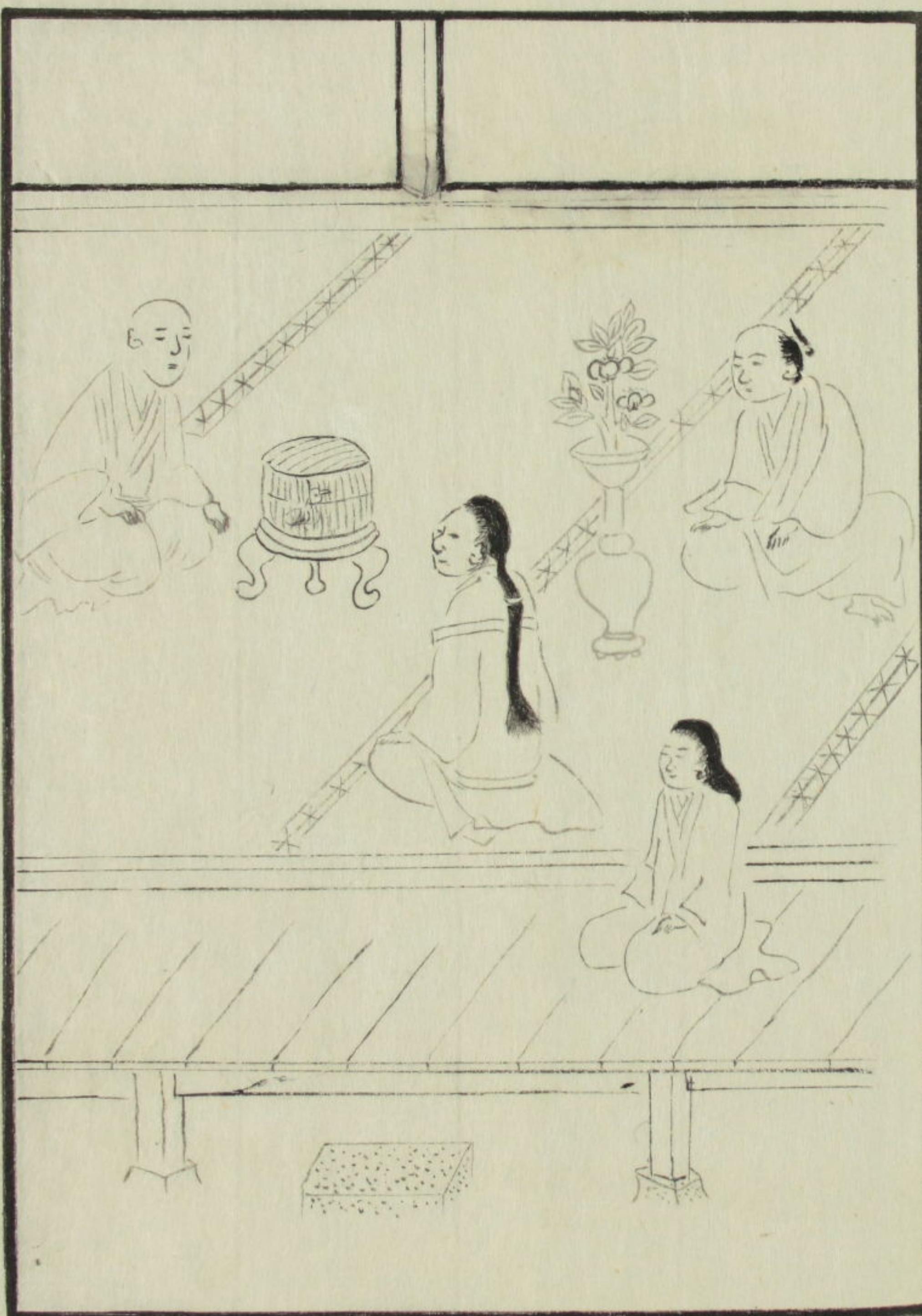
貴殿
とかくよしとをよきテ人の人がさんきぐ
そくゲとのをよのんそくからさよりてうをも
うちあやよせんよあきき其のつをさをべひえ
てうをひめ藏しゆしゆをればうまさいわりゆ
まのかんの内ときよもよてうをありくみふこどおいらん
まりてよてよのよをきりいづきわくうあけ
きどもあくよとうきけうを一こゑあすかのうもよ
二まようんのよねをいもあくべいどもありかるめい
よのうたすればとのうともいまくとぬみをちうめし

とくにひよこは

をくもうんごあんじやかいたげふと一切きゆのどいよ
あくまわけきゆのふりんがんもどうきてうりのりよ
くもうんじようじゆのをくらべこうぶるすみつちげふと
とくきくわかるをくとくわあらふすきもとあらう
もくもくじをべあたまくあととあくとてはくのあくあくきわく
せうかむくちもくきよのをくわせんじゆのそくくわくしとく
つもくみゑいわことよ面へるいわせんゑよみをもくとえ
あきばたりすくもくとなくとくわせん
せのまきりのよくわせんりのとくふあいきん
よつわせんのかをかぎりわくとむくおながみ

月元年半日樂

あともをばはよまきりかねてらふりのまきばくわうて
まのいろえんちる事へありがてさきばくわうて
若あくとたきまくもんものわうて
いのをもかくとあくと
こかくよゑやくをうきそりからむりのまきそり
えくべかくのこくわなまくもくまくいぬりのまくひ
くともとてくわひをあくとくわうんおばあくわく



きやうぢくらんよおからまとよらうひとくわくうがこみとく
うへうとぐまとまんじをだんじまぬはうけさんちげやうを
ももびるまつりともうかくさかのかのくもんのぐんがまつてよを
入念やくうさうのわくういちくをかくねんぞきい
いもととありそりうともよこけのもをせぞちざんとおひ
かもりつまがまごめあきのあひそつぬハわとなくあき
きりもきりあきれとわきをもくもくをうのうのうもせ
うもとくもくをもくすのをやうきうあくゆつまめい
ゆふゑうのあとくもくざくのけくくひくがもとど
とみそくろんのふばありーをきうりーさもがをんをくわく
あくゆづきもむらのどももあをえくるをもよのまくわとく
えががくりうりううことあんどむくさくわテドんのく
くわくじゆよかざのとき

あちふうばよしむひあくよむめのふ
わくじあくとそもくわふそそきそ
こあいじくひーほくうぶくをかくもとまくうもくうきくま
ちくせんのさく(寧府)のあくほくわとをあくひてとくふくぎわとを
まくうのあくぎわくうぐん天皇のゆきふあみとのよなたうま
そよこのよのきのむりようのまのやううをあくとく

アカハ

初瑞海朝未

不相還幸西

とくくりんじようく見え給へ

有事の行ふどみきをとむ

らんじとくもくのすくり
とくくよふくじてくくわからむーをそくとくわもくわ
のたびきふまうをとくとくわとくとくわ

ちくさのとくらむだより

まくらのものとひひす

とまくはけとすらとひとあさんとあいやあくとふうぐの
あくと花の心をりんずるふりわらふをせのゆりこひ
きぬのりくらむとせしとひとまのわざをひくのうへ
かくねうきんまのえのちくらうとこまをもいとよま
りなりこのさくらんをとくらうときいのこくからとあまび
ゑいじまゆりをくらうとあまちきひ勢ひこくのま
のあくやうさきば二入のくもこみあくもふあくもでやくとま
うをやくをくらうりをらんずまくはゑいじをあまび
とくくらんをんのさい故んへあうだちをくわがくとまかんこ
まをうがひとかく天てせとくらうゑいじをたくむをう
きくさればうりうらうくらうくらうもくらうとも

りのまのまちへわゆるくもあらまくらうとあまんまんじう
たまさくめくとくらうせのゆくらうとまくもがくとくいとん
あくぬまくさあやうれんじをくらうとゑいじまゆりを
えよかがくこくらうとまくもがくとくがくとくまくらう
がどくつきふきりいとまくとくとくとくとくとせん
まくのまくのまくふくらうやまくもがくくわくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
君ううをくらうとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
ざくぬまくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
かくじふもくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
かくじふもくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

下絶

此書ハ杏花園のあらうへいめ直はりひとまことなりこのまじめ
ちふをもぐらと写へましり川かくぐのたすけとせし事を
わづく

享和癸亥神宵禁にげの日

藤原縣麻呂

右わづまわづ二巻りと色音論と号け尚下巻枕ふ見る
其外題のゆゑうへ同巻十九丁目ラふ當人の好れいへ鷦を
集め之をもぐる椿をわまき植ゑて鳥のあくあえ花のいろ
音と色とめちうそいへ心をよむぬ人となと思ふたま

にテ書僧

活東子識

りのそめおちへひまかくもよるとりもんをもんじゆ
たもさくへりぞくうきもせの中やなんとまつまびぬふせいだん
あくぬまくきふやびてりんどをらそびてゑいぐもひくと
きくとよかあくこゑのくもももきながくすもふふね
ひあどあくつきふきりじるすとくばとそくのこぎもくせん
ざくのあくのうちふもぐりやまきもふくらへあくまとまくと
わくともとくのうかくとわくともとくのすくまくとく
こうはくのうい二十ほんちりまなまきばをまじふりくまくと
あくがすをもすとぐみのなまきよりあがからくとあくまくせん
をあくぬまくとくふわんどまくとくまくとくのくまくとく
あくひでふもやあくのものもとばくまくふうふくまくとく

下経

飛書の曹花園のあゆぐ、云め重ねひとまきなりこのごとせ
ちふえもぐりて写へ一叶めりかくぐのたすけとせじ事を

不_レノ

享和癸亥神吉廿九日

藤原縣麻呂

明治二十歳丁亥初冬

筆者

妻木頼徳

